



1/26 全国中学スケート大会で健闘誓う

1月10～12日に札幌市で行われた第45回全道中学スケート・アイスホッケー大会のスピードスケート競技で好成績を収めた笛木悟君（虹別中2年）と笛木麻和さん（虹別中1年）が、1月31日から長野県で開かれる平成26年度全国中学校体育大会に出場が決まり、その報告に役場を訪れました。3000mと5000mに出場の笛木悟君は「全道大会では決勝に出場はしたけど、予選よりも成績が下がってしまった。全国大会では決勝に進出し、順位を上げたい」、1500mと3000mに出場の笛木麻和さんは「全国大会は全力で挑みたいです。全国大会に出場することはいい経験なので頑張りたい」とそれぞれ全国大会での意気込みを語りました。



1/17 冬の観光をけん引「SL冬の湿原号」運行開始

今年で運行15周年を迎えた「SL冬の湿原号」が運行初日を迎え、釧路駅で出発式が行われました。出発駅の釧路駅構内は、雪が降る中、大勢の鉄道ファンや家族連れなどでにぎわいました。出発式では沿線自治体を代表して池田町長が「ぜひ一度乗車して、ゆったりとした時間を過ごして欲しい」とあいさつし、続いてJR北海道釧路支社大江支社長は「SLは釧路方面の限定運行になる見込み。SLを利活用しながら道東の魅力を発信したい」と語りました。その後くす玉を割って周年を盛大に祝い、釧路駅長の合図で釧路駅を出発しました。



2/3 運行15周年となるSL冬の湿原号を切手に

日本郵便北海道支社は、運行開始15周年を記念して「SL冬の湿原号」を題材にしたオリジナルフレーム切手を発売しました。標茶郵便局の石栗征剛局長（写真左）が役場を訪れ、池田町長にフレーム切手とオリジナルポストカードを寄贈してくださいました。このフレーム切手に採用された写真の半数以上は、町内在住のアマチュア写真家の作品で、発売に合わせて採用された作品の写真展が3月9日まで標茶郵便局で開催されています。



山谷
守さん写真提供

1/25 煙を上げるSLと馬たちの並走

「第16回SL冬の湿原号とホーストレッキング」が多和の金森牧場で行われました。標茶駅から川湯駅に向けて走るSL冬の湿原号に合わせて開催している恒例行事で、SLと馬の共演を楽しむ会（東理義一会長）の主催。釧路根室管内の乗馬愛好家と愛馬の15組がSLとともに雪原を疾走しました。会場には、鉄道ファンや写真愛好家が集まり、牛乳や甘酒が無料で振る舞われたほか、手焼きせんべい体験やポニーのそり乗りなども行われました。

2/5 東北海道スピードスケート大会で好成績



1月30日～2月1日に帯広市で行われた第54回東北海道スピードスケート大会で好成績を収めた宍戸大夢君（塘路中2年）と金野日南さん（標茶中1年）が、その報告に役場を訪れました。500mで5位に入賞した宍戸君は「500mと1500mともに自己ベストを更新できた。楽しんで滑れたのが収穫。リンクでは感謝の心を忘れず、スケートを心から楽しむことができた」、1000mで1位、1500mで4位に入賞した金野さんは「前大会の反省を踏まえて、1000mは積極的に滑れた成果が出た。どちらの種目も自己ベストを5秒以上短縮することができた」と話しました。

しべちゃ映画物語「挽歌」

～ビデオ上映会～

釧路を代表する小説家原田康子の代表作「挽歌」。小説の反響を受けて1957年に上映された五所平之助監督による映画「挽歌」は、ロケ地に塘路の軌道橋が使われるなど本町に関わりがある映画です。映画自体も大ヒットし、道東観光の火付け役となったほか「挽歌族」「挽歌スタイル」などの言葉を生み出す社会現象にもなり、高く評価されました。本講では改めて「挽歌」について解説した後、上映会を行います。昭和30年代初頭の釧路や標茶の姿がスクリーンに躍ります。どうぞ参加してください。



塘路での『挽歌』ロケ風景
写真中央コートを羽織った女性は女優高峰三枝子。

（標茶市街とロケ地となった塘路の2会場でを行います）

日時・場所／3月5日(木)、午後6時30分～9時…開発センター
3月6日(金)、午後6時30分～9時…塘路住民センター
参加費／無料(当日も受け付けしますが、事前申込をお願いします)
人数／各会場とも30人
申し込み／両会場とも3月4日(水)までに、郷土館に連絡してください。

大川のほとり

—郷土館だより(第65号)—
☎487-2332
開館時間
午前9時30分～午後4時30分

郷土館より上

今年の冬は大型低気圧の影響による停電や地吹雪が長く続いたり、ヒグマの被害がありました。自然を相手にするときは「今まで事故が起きたことはないから。」と楽観視することはできないと感じた冬でした(辻)。

疫委員も拝命し、着任早々鹿兒島で発生したコレラ流行の際に尽力し後に慰労金を貰うなど活躍しましたが、翌19年9月に依願免職。これは北海道集治監の看守を全国公募する事を知り、募集に志願するためでした。



有馬四郎助

20代半ば頃の有馬四郎助。

幼少から剣術を嗜んでいた四郎助は、集治監内で西洋式のサーベルではなく日本刀を帯剣していた。

四郎助は2カ月後に15歳の若さで正規訓導となり、同県伊佐郡羽目村崎山小学校に赴任しました。1年余り子どもたちに勉学を教えた四郎助は訓導を辞し、程なく鹿兒島より京都に出て京都府二等巡查となり。明治14年、四郎助17歳の時でした。当時は一等巡查(四等巡查までの階級がありましたが、四郎助が17歳で二等巡查として採用されたのは異例でした。その後3年ほどで京都巡査監督(現在の警部補に相当する)となった四郎助は、明治18年8月に鹿兒島県警部補として郷里へ戻ります。四郎助は警部補と同時に検

(前回のあらすじ)有馬四郎助は文久4年(1864年)鹿兒島県鹿兒島市下荒田町にて益満喜藤太の四男として生まれ、士族である有馬平八の養子となり有馬姓を名乗りました。四郎助には3人の兄がいましたが、長男と三男は西南戦争で戦没。次男は病弱でした。幼い頃より成績優秀だった四郎助は学校卒業と同時に、母校の訓導(＝現在の教師)補助となり家計を支えていく事になりました。

釧路集治監人物伝 最終話 中編1

釧路集治監看守長 愛の典獄 有馬 四郎助



春を感じられる スポットはここだ！



3月になるとサルボ展望台周りの斜面はキタミフクジュソウ、フキノトウ（アキタブキ）が顔を出します。塘路湖のアオサギコロニーにはアオサギが帰ってきます。シラルト口湖には北へ帰るヒシクイ（ガンの仲間）が冷泉橋の駐車場から見えるはずですよ。

郷土館ミニだより

これ、な〜んだ？ その10



冬のシラルト口湖を散策していると、枝先にこんな実をつけた、やぶがありました。

これはホザキシモツケ。夏にピンクの花を咲かせる、釧路湿原ではおなじみの花です（高さは1〜2mですが、れっきとした木の仲間です）。

冬の姿から夏の姿をなかなか想像できませんが、実をよく見ると、花の形の名残りが残ります。



平成26年度 郷土館移動展

標茶に残る **ただいま開催中!**

レコードの世界

現在の歴史移動展を実施しています。懐かしいレコードの空間へお越しください。



開催日程

(各会場のロビーに展示します。見学は無料です。)

茶安別農村環境改善センター	3月2日(月)～6日(金)
阿歴内公民館	3月9日(月)～13日(金)
塘路住民センター	3月16日(月)～20日(金)
虹別公民館	3月23日(月)～27日(金)

※各会場とも初日は、午後からの展示となります。

四郎助は幼い時から優秀で若年ながらも抜てきされてさまざまな仕事を果たした一方で職が定まらず、転々としていました。しかし、釧路集治監と大井上輝前との出会いが、その後人生を決めることになったのです。

(続く)

公募は前年開庁した釧路集治監の看守を募集するにあたり、典獄（現在の刑務所長）大井上輝前が、広く有能な人材を求めるために行なったもので、日本の行刑上初の試みでした。早速募集に応じた四郎助の元に、同年10月3日釧路集治監採用の知らせが届き、同時に警守課配属の辞令を受けます。そして四郎助は郷里の方々に、自分と一緒に看守となることを勧めた結果、数十人の看守希望者が集まりました。彼らと実母タメを連れ、赴任地である標茶の釧路集治監へと旅立ちます。四郎助は赴任に際し、途中で北海道へ移送する囚人を受け取り護送する任を受けたとも言われています。警部補の前歴が影響したのでしょうか。また辞令を受けた警守課は囚人の戒護を担当しており、護送の為に発令したとも考えられます。大所帯となった四郎助ら一行は鹿兒島から神戸、東京、宮城県塩竈、青森を経由し函館から釧路へと船で何度も乗り継ぎしながら北上しました。最後の釧路から標茶までも川蒸気船であり、まさに旅の全行程は船でした。非常に大変だったことが伺えます。

標茶到着後の明治19年12月11日、四郎助は改めて釧路集治監看守長兼書記に任じられ、2週間後には兼ねて警守課長と厚岸警察署標茶分署長に任じられます。当時の釧路集治監はこの地方最大の行政機関であったことから、標茶分署長は集治監看守長が兼任していました。現在では警部、一般職では課長に相当する役職についた四郎助はまだ22歳でした。大井上典獄は鹿兒島から来た若き四郎助の力量を見定め、当時としても異例の大抜てきをしたのです。